

令和元年度 第2回学校関係者評価委員会 報告

日 時：令和2年3月5日（木）18:00～19:00

場 所：応接室

出席者：学校評議員4名、学校関係5名

1. 学校評価の結果から（報告）

- ・保護者、生徒ともに90%を超えている項目が多い。
- ・生徒への「読書に関するアンケート」の結果から、朝の一斉読書において、じっくりと読書に集中できていない生徒もいる。
- ・保護者からの評価では、特に「探究学習や課題研究を通して、地域の活性化に貢献できる活動に取り組んでいる」という項目が昨年度よりも向上している。
- ・教職員からの評価については、厳しい評価結果となっている項目がある。これは、教職員がじっくりと分析した結果、もっと良い学校にしたいという思いからだと考えている。

2. 学校評議員によるご意見、ご提案

(学 校)	・ICTの活用については、情報教室の機器が更新されて、タブレット約50台が設置された。授業での活用を目指して、まず教職員への校内研修から始めていく予定である。
(評議員)	・中学校でも少しずつ、ICTが活用されている。 ・グループでの調べ学習や、体育では運動の様子を撮影して自分で観たりするなどの使い方をしている。 ・教科書もやがてデジタル教科書が導入されてくるのではないかと。
(学 校)	・次年度から、朝読の時間を10分にするようになった。
(評議員)	・高校生は、大学に進学した後のビジョンをもっているのだろうか。大学に行くためだけの学びになっていないか。 ・生徒の主体性を育むことが重要だと思う。朝の読書についても、その意義が生徒に伝わっているのだろうか。 ・今の高校生、大学生にとっては、読解力と対話力が重要と考えている。
(評議員)	・高校生のときの読書体験が今にいきいていると思う。 ・とにかく情報が多いため、高校生は自分が何をしたいのか分からないのではないかと。
(学 校)	・「黒板アート」については、生徒が熱心に活動して、素晴らしい取組みになったと思っている。
(評議員)	・黒板アートは素晴らしい取組みだった。
(評議員)	・市役所などの地域との連携は、「黒板アート」などで非常にアピールできたと思う。 ・地元で貢献できる人材の育成を掲げて、地域の自治体と連携することも方法の一つではないかと。
(評議員)	・高校生が何をしたいのか、どのような地域にしたいのかなどについて、一緒に考えていく機会がほしい。
(学 校)	・県は、次年度からの高校入試において、県外募集を検討している。いわゆる学区をこえた出願についても、検討されている。
(評議員)	・香川県も、公立志向から私立志向へと変わりつつある。公立高校でも、特色を出していくことが重要だと考えている。 ・中高の教員の連携も重要である。中学校の授業も見たい。